

棚田に吹く風

2009
8月号
Vol.66

特集 棚田と水の密接な関係 棚田の水はどこから来ているの？



棚田に吹く風 8月号 目次

4 シリーズ

棚田・里山からのたより

山口県長門市油谷 東後畑棚田

棚田保全の取り組み

6 連載

榎原の稲作日記

ブック&ムービーレビュー

7 青柳健二の

「世界の棚田から」

田んぼの生き物たち

8 棚田博士は今日も行く

兵庫県養父市

「別宮の棚田」

10 棚田調査プロジェクトレポート

11 棚田ネットワーク

Project & Topics

今回の表紙

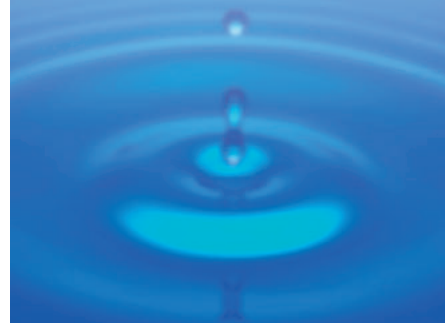
「栃木県茂木町岩ノ作棚田」

栃木県茂木町岩ノ作での棚田ネットワークの保全ボランティア風景。猪対策の電気柵の設置を地元の方の指導でお手伝いしました。

「棚田」と「水」の

密接な関係

棚田の水はどこから
来ているの？



水田稲作にはたくさんの水が必要です。春先の耕耘から秋の稲刈り前に田んぼを干すまで約4カ月。一反歩あたり平均で1800トの水を遣うといわれます。

平場の水田の場合、農業用水の水源は大きな川など。用水路で田んぼに水を引き入れ、田んぼから排水路に直接落とすやり方がほぼ確立されています。一旦排水路に流れ込んだ水は、同じ系統の中で再び用水路に入ることはありません（用排水分離型）。

ときどき、水不足で生活用水の給水制限などがニュースになりますが、農業用水は生活用水とは別の系統です。こちらも水不足の時に時間を決めて取水する「番水制度」が実施されることがありますが、ほとんどの場合、用水の供給は安定しています。

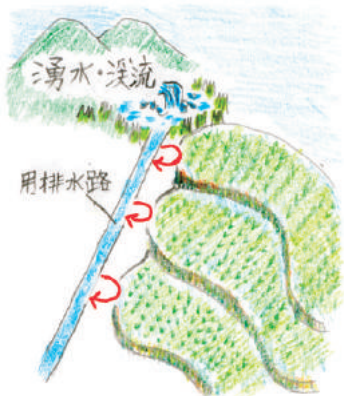
ところが、棚田は川の上流部にあるので、そうはいきません。

棚田の場合、田んぼを潤す水は①湧き水・

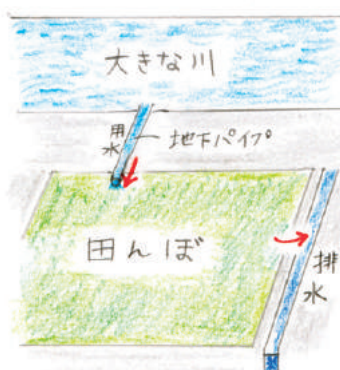
溪流など②溜め池など、から引かれています。このほかに③水源を全くもたず、文字通り空から降ってくる雨だけに頼る「天水田」もありますが、非常にまれな存在です。田んぼもありませんが、非常にまれな存在です。「日本の棚田百選」に選定された全国134箇所の棚田の多くは①の湧き水・溪流などが水源で、②の溜め池を水源に持つものが約15%です。③の例としては、千葉県鴨川市の大山千枚田が挙げられます。

多くの棚田では、田んぼのすぐ脇に水路が流れていて、そこから水を引き、排水します（用排水兼用型）。水は一枚の田んぼだけでなく、隣や下の田んぼに流れ込んで、何枚もの田を潤します（田越し灌漑）。溜め池から田んぼに入り、再び流れ出た水を最下段に承水池を造って受けとめ、ポンプアップして再利用している地区もあり（長崎県松浦市土谷の棚田など）、少しの水も無駄にできないという状況が推察できます。

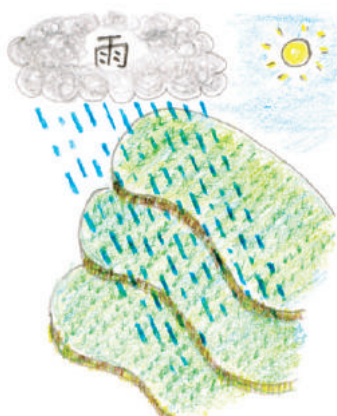
①湧き水・溪流の水を利用



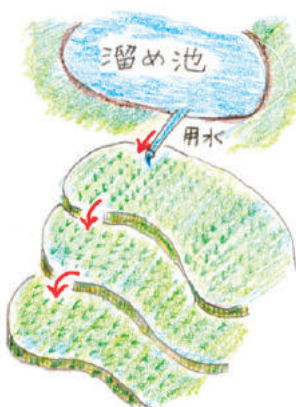
平場の田んぼの場合（棚田以外）



③雨水を利用（天水田）



②溜め池の水を利用



春のような秋の風景 新潟県頸城地方の「秋田」



田んぼの作業は、春先の田起こしから始まります。多くの田は、冬の間は水を落として乾いているため、雨が降って土が湿るのを待ち、トラクターで耕耘して天地返しをします。そして代掻き。用水路から水を入れ、水がある程度溜まったら土塊を砕いて表面をトロトロ状態にします。乾いた土が水を吸うため、代掻きの際にはかなりの水が必要。もちろん田植えとその後も、(やり方はいろいろですが)数センチの水深を保たなければなりません。

新潟県頸城地方の豪雪地帯には、雪は数メートルも積もるのに水が安定して得られない棚田が多くあります。雪が田んぼを覆っている状態では、田起こしはできません。ところが、雪が消えるということは、せつかくの水が下流に流れ去ってしまうことです。

そこでの工夫が「秋田」です。稲刈りが終わった後の秋のうちに、田起こしと代掻きを済ませ、冬に積もった雪が解けた水を田植えのときの水として利用するのです。

秋なのに春かと見間違えう田んぼ。雪国の棚田地域のなかでも、水の確保に苦労しているところで見られる風景です。

(編集部)

梅雨も満足に 雨が降らず 宮崎県日南市坂元棚田



坂元棚田は、小松山中腹の二つの谷から、昭和初期に造られた約千五百メートルにわたる水路により水を引いています。水路は毎年のように、大雨・台風などの被害を受けていましたが、近年は状況が変わってきて、水不足にも悩まされるようになりました。坂元棚田の田植えは、例年六月中旬に行います。六月に入ると水路から田圃に水を引きますが、今年は全然雨が降らず、大変な状況でした。

棚田の上流の二つの水路にも行ってきたが、水は流れているものの棚田を潤すほどではありませんでした。幸い六月初めに少し雨が降って、田圃に水を引くことができましたが、この時点で三分の一度しか引けませんでした。また、水を入れても干上がる田圃もありました。

九州南部地方は、六月九日に梅雨入り宣言が出されましたが、それでも雨が降りません。六月十四日に開催される棚田オーナーの田植えも危機迫る状態で、延期か中止か検討していました。水が張っている二枚の田圃を提供してもらったことで、事なきを得ました。深刻な水不足はその後も続き、今年の稲作はどうなることかと心配されましたが、六月二三日に降ったまとまった雨で少しは解消されました。

今年は、いつになく過酷な自然条件での稲作となりそうです。水不足、台風の襲来、冷夏など、異常気象がいつもより心配されます。天候に左右される農業だから仕方がないことだけど、やっぱりなんとかならないかと思っています。しかし、自然には勝てません。こういう厳しい状況で育ったお米だからこそ、大事に食べなきゃと思います。世の中もつたいないことが多すぎます。このような農家の人の苦労を考えれば、何一つ無駄にはできないと考えさせられてしまいました。

(日南市役所農政課・矢野 英徳)



雨乞い

長いこと雨が降らない時、昔の人は「雨乞い」をしました。雨乞い神社や雨乞い伝説の多くには龍が登場します。龍神池という名の池もたくさん。これは、龍神が水を司ると考えられていたためだとか。

岐阜県恵那市の笠置山にある、雨乞いで有名な笠木山大権現の神様は「鎌」。白木の箱に入れて青竹の先につけた「御鎌様」を先頭に、蓑や笠などの雨具を身につけた村人の行列が、お囃子を奏でながら行進しました。雨が降ると、お礼として一対の鎌を奉納したため、神社には五十対二百丁もの御鎌様があるそうです。

千葉県鴨川市の大山千枚田の近くにある「いさきの池」は、「日照り」のときに池から水を汲んできて田んぼに注ぐと雨が降る」という言い伝えがあります。2001年夏に日照りが続いた時には、棚田のオーナーみんなで池に行き、水を汲んで田んぼに持ち帰って注ぎました。「日照りに不作なし」といわれ、雨乞い祭りは村人にとっては臨時のお祭りという要素があるそうです。その時もみんなでお囃子や歌を歌いながら池へ行って帰ってくる、そんなお祭りのような雰囲気でした。



いさきの池から水を汲む棚田オーナー

(T・M)



ゆや棚田 魅せて 教えて とりこにさせて

山口県長門市油谷 東後畑棚田



① 棚田の草刈り作業／② 漁火と棚田／
③ 夏休み宿題お助けツアー（ステンドグラス教室）④ シンボル看板設置しました／⑤ 保育園いも掘り体験受け入れ

山口県長門市油谷地区は、山口県の北西部に位置し、北は日本海、南は油谷湾と周囲を海に囲まれた地域であり、昔から平地、傾斜地を問わず稲作が奨励されてきました。向津具半島の宇津賀・向津具地区を中心に六百畝、二万五千枚の棚田があり、高いところでは標高二百メートルの地から海に向かって百段もの水田が階段状に築造されているところもあります。

この棚田は、関が原の戦に負けた毛利氏が、中国地方全土を領地とする百二十万石の大大名から防長二国三十七万石の小大名に移封された際に、窮迫した藩財政を建て直すための切り札として新田開発を奨励したもので、当地域は大野毛利家の知行地として、約三百七十年前から鋭意開拓が進められたといわれており、開拓に励んだ先人の苦勞と、稲作を中心とした農耕の歴史や文化が刻み込まれています。

とくに東後畑地区は、平成十一年に「日本の棚田百選」に認定され貴重な財産が生まれるなど、第一次産業や景観を活かしたまちづくりが行われてきました。しかし、過疎化・高齢化の進行等によって、

棚田の耕作放棄地の増加が進み、棚田の生産機能や良好な景観、多面的な機能が低下しています。

この状況を危惧した住民有志により、平成十八年に棚田の景観保全・継承を行い地域の活性化に寄与することを目的にNPO法人ゆや棚田景観保存会が設立され、棚田保全に向けた活動をしています。

地域内にある廃校校舎（旧文洋小学校）を市から借り受け、活動拠点として各種会議、交流活動等に活用しています。また、六十八畝の棚田を借り受け保全管理をしており、草刈り・田植え・稲刈り・いもの栽培等の作業に汗を流し、収穫した米といもは市内のふるさとまつり等で販売しています。特に棚田米は「漁火米」と名付けています。

夏休み宿題お助けツアー

廃校校舎を活用して、東後畑地区の棚田を市内外に広くPRするとともに交流人口を増やし、地域の活性化に繋げることを目的に昨年から開催しています。小学一年生から中学生を対象に今年は、①

スタンディンググラス教室 ②海の漂流物を使った工作教室 ③野菜を使った楽器作成教室 ④油谷島塩づくり教室の四つを8月の二十二・二十三日の二日間開催します。昼食は、棚田米のおにぎりとお蕎麦です。昨年は、保護者を含め五十八名の参加があり、たいへん好評でした。

保育園のいも掘り体験受け入れ

油谷地区内にある菱海保育園の園児の「いも掘り体験」を昨年から受け入れていきます。昨年は園児四十八名の参加があり、両手に持ちきれないほどの袋を抱え、園児たちの笑顔に囲まれ、普段味わえない癒しの一時を過ごすことができました。今年は十月二十二日の予定で、会員一同楽しみにしています。

東京都立高校農業体験学習の受け入れ

旅行会社が企画した体験・交流目的の高校生の修学旅行を市が市内六箇所を受け入れ、そのひとつとして東京都立高島高校の生徒二十六名の農業体験学習を昨年受け入れました。

地域の自然文化探訪。昼食づくり体験。

昼食メニューは、山口県の郷土料理である「けんちょう」と棚田米のおにぎり、イカ・サザエ・クルマエビのバーベキューでした。イカを知らない生徒が居て会員ビックリ。みんなで協力し合い、おいしくいただきました。農業体験は、いも掘りとタマネギの植え付けの二班に分かれて実施しました。皆さん、はじめての体験で最初は戸惑っていましたが、会員の指導のもと真剣に取り組んでいました。特に最後の焼きいもは、いもを焼いて食べるという経験のない生徒たちにはたいへん好評でした。参加会員も高校生との交流をたいへん喜んでおり、「元気をもらった。更に交流を深めたい」との意見も。今年はこの企画はありませんが、来年からは本格的に旅行会社を取り組むと聞いていますので、機会があれば是非受け入れたいと思っています。

「夜棚アンサンブル」

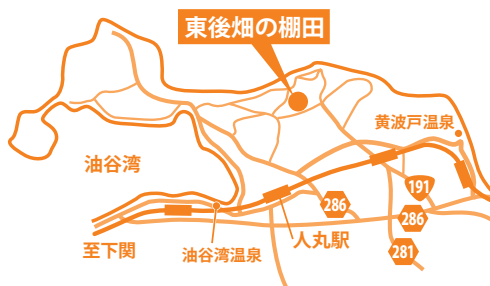
クリスマス・コンサート 文洋

廃校校舎を活用して、音楽（クラシック・和楽・ポピュラー）ライブを開催。地域内外との交流を通じ、地域の文化意識の向

上と活性化を目的に開催しました。当日はあいにくの雨でしたが、六十六名のお客さんが来場され、出演者・来場者・スタッフがひとつになつての合唱もあり非常に盛り上がり、音楽と手づくり料理を楽しみました。今年も開催します。

以上、これまでの主な活動を紹介してきましたが、関係機関との連携及び支援をいただきながら、各種イベントの開催、作業環境の整備（農機具等の購入）、シンボル看板の設置等、過疎化・高齢化が進む地域を棚田保全という基本理念の基に「地域を何とか元気にしたい。活性化したい」との思いで、会員一同、後退することなく、ミリ単位でも前進しようという気持ちで頑張っています。

「NPO法人ゆや棚田景観保存会」
理事長 村岡富士夫



油谷地区は、本州の最西北端、県北西部に位置しています。北長門海岸国定公園には日本海の荒波が砕ける奇岩、断崖が続く雄大な景観が続き、また、向津具半島に抱かれるように波静かな油谷湾があります。

また、大陸に近く、古くからその影響を受けていたこの地には、楊貴妃伝説が生まれ語り継がれています。伝説と史跡が豊かな自然の中で交差する、ロマンあふれるふるさとです。

■ 棚田へのアクセス

【自家用車】中国自動車道 美祢ICより1時間30分
【公共交通】JR山陰本線 人丸駅から乗合タクシーで「岳」下車（人丸駅から通常のタクシー利用が便利）

■ お問い合わせ

【NPO法人 ゆや棚田景観保存会】
☎0837-32-2305 理事長 村岡 富士夫



①東京都立高校農業体験学習
②夜棚アンサンブルクリスマスコンサート

Tales of Kashihara Tanada

棚田百選

檜原の稲作日記

徳島県上勝町
檜原の棚田村

第三回 猪鹿物語

「秋になって猪に米を食われた」「田を植えたら鹿に皆食われた」「苗を踏み荒らされた」と被害の話が始めて20年位になると思う。山寄りの田では収穫がゼロの話が毎年になる」と百姓も大変だ。

昨年、役場の係の人から「檜原の集落全体共同で国補事業の猪鹿対策のネット張りをやらないか、自己負担10%だ、稲の直払制度の対応可だ」と話があり、集落相談会で

一、直払制度経費で必要経費を支出する

二、出役は全員無償で出る

三、高低差250㍎、周囲5250㍎をスッポリ囲む（水田の脇、杉林内に）

四、集落出入りの町道3ヶ所は遮断しないと話は決まった。

昨年度の経費と出役で春までに750㍎のネット張りができた。直払制度が始まった八年前、集落をネットで張り巡らせないと提案したが賛成は一人しかいなかった。国庫補助のある今回と異なり、全経費を直払制度の金だけでの対応だったので無理だったのだろう。

個々人で張られるネットは鋼線が入っていないく、破られるケースも多かったが、今回の新しいネットは破られる話もなく安全なようだ。新しいネットのない下方からの鹿の侵入が一段と多く、下方では「田毎の月」ならぬ「田毎のネット」で色とりどりのネットがにぎやかである。

田植え時期に水不足で耕作できなかった田は三反弱位であつただろうか。こうして耕作できずにいると水持ちもわるくなり永久不耕、いわゆる耕作放棄と呼ばれる土地が増えることになっていく。



上／黄色やピンクのネット
左／水田脇の杉林内のネット



谷崎 勝祥 71歳

編集部イチオシ! BOOK & Movie



MOVIE

『阿弥陀堂だより』



2002年 128分
DVDレンタル中
販売 ¥3,455(税込)

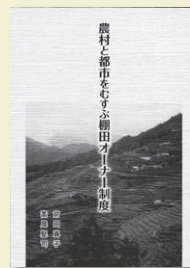
○配給
東宝 / アスミック・エース エンタテインメント
○販売
角川エンタテインメント

東京に住む小説家の孝夫は、妻が心の病に冒されたのをきっかけに故郷の信州に移り住むことを決意する。二人は村の人々とふれあい、自然に抱かれて暮らしていくうちに、いつしか生きる喜びを取り戻していく。美しい四季の風景は飯山市近辺で撮影が行われ、唯一のロケセット「阿弥陀堂」は、棚田百選にも選ばれた「福島新田」のそばに今もひっそりとたたずんでいます。



BOOK

『農村と都市をむすぶ 棚田オーナー制度』



¥2,940(税込)
丸善岡山支店
出版サービスセンター
2007年3月発行
A5版76ページ

ご購入は下記メールアドレスにお問い合わせください。
takaokm05@yahoo.co.jp
前田真子

前田 真子 著
高尾 堅司 著

各地の棚田オーナー制度を「棚田オーナー制度」という言葉で一般化せず、むしろその個性性に焦点を当てた、棚田オーナー制度の実態に迫った一冊。筆者が現場に足を運んで行ったアンケート調査と聞き取り調査の結果、さらにWeb上のデータまで幅広く掲載。棚田オーナー制度の多様性と実態に触れてみて下さい。

青柳健二の 世界の棚田から

韓国・南海島

韓国にも棚田があるのだろうか?と、素朴な疑問がわいて調べ始めたのは02年ころ。国会図書館で詳しい韓国の地図を借り、衛星写真からミサイル基地を探す秘密諜報員のよう、等高線と稲のマークを探した。今ならGoogle Earthで探すという手もあるし、実際そうしてもいるが、当時はまだ一般的ではなかった。

結局、地図であたりをつけた場所は、地図が古かったのか空振りだったが、たまたま韓国南部で知り合った農業関係の役所で働く人の協力があり、南海島にあることがわかった。島といっても、橋でつながっていて、ちょうど、長崎県松浦市福島町にある土谷棚田のようなところだった。もし目隠しをされて連れてこられ、「さあ、ここはどこでしょう?」と聞かれても、決して自分が外国にいるとは思わないだろう。ただ、そのうち民家の形が違うので、「日本ではないようだ」と気がつく。

棚田は、階段状に連なり海まで続いていた。海に面した棚田は、日本ばかりではなく、韓国にもあることを初めて知った。

海を隔てた向こう側は九州だから、棚田も似ているのは当然といえば当然だ。地理的な近さもあるが、歴史的には紀元前からずっと交流があった。そもそも稲作が日本にもたらされたルートとして、朝鮮半島を経由した可能性もある。韓国の棚田は、日本とアジアの文化の連続性を感じさせるものだった。

宿のテレビを観ていると、稲をブルドーザーで倒したり、田んぼを焼いている韓国農家のシーンが流れた。韓国でもその年は冷夏で、コメが不作だった。こんな災害も日本と同じ。稲作を通して見る韓国は私の中で、ようやく「近い国」になった。

○青柳健二

1958年山形県河北町生まれ。学生時代、欧州を旅行中に偶然本屋で見た写真集に興味を覚え、大学卒業後写真を独学。アジア各国を取材旅行する中で、中国・雲南省で偶然出会った棚田の美しさに衝撃を受け、以来10年以上、日本・アジア・アフリカの棚田を撮影し続けている。著書に『日本の棚田百選』(2002、小学館)、『アジアの棚田 日本の棚田』(2004、平凡社)、『棚田を歩けば』(2007、福音館書店)など。URLは <http://www.asia-photo.net/>



田んぼの生き物たち

第15回

アメリカザリガニ



いまや、田んぼや水辺の生き物のレギュラーメンバーになってしまったアメリカザリガニ。彼らは、1927年に日本にやってきました。かつて私は赤いのがアメリカザリガニで、茶色っぽいのはニホンザリガニだと思い込んでいました。ところが、ニホンザリガニは北海道と東北の一部にしか生息しておらず、それ以外のザリガニはみなアメリカザリガニと知った時は大変驚きました。彼らは「要注意外来生物」に指定されています。

アメリカザリガニはとても美味しいエビです。1週間ほど毎日水換えをして、水道水で泥抜きします。日本酒に10分ほど浸け置き、塩ゆでにすると、まるでミヤナギエビ、モクズガニなどの数が増えることも期待できます。釣って楽しみ、食べて楽しみ、外来種の駆除にもなり、日本の生物多様性を保全することにもなるアメリカザリガニの食材利用。気になった方は是非挑戦してみたいかがでしょうか。

(自然観察指導員 桐原真希)



ニロブスターです。むき身にしたものを、ピザやサンドイッチ、ポテトサラダの具にしても美味しく頂けます。ただし、淡水生の生き物は寄生虫がいることがありますので、必ず十分な加熱をして下さい。ため池や水路からアメリカザリガニの個体数が抑えられると、在来種のサワガニ

棚田博士 は 今日も行く！

中島峰広の 全国棚田行脚

大カツラが見守る棚田

兵庫県養父市別宮



■ なかしま みねひろ 中島 峰広（棚田博士）

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO法人棚田ネットワーク代表。棚田学会会長。全国棚田（千枚田）連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地歴科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田—保全への取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』（以上、古今書院）。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。

養父市は県の北部、2005年にかつての養父郡八鹿・養父・関宮・大屋の4町が合併して誕生した新市。その中心は山陰本線の駅がある八鹿。旧関宮町別宮への入口にあたる。別宮は養父市の西端、県の最高峰氷ノ山（1509メートル）を目の前にする標高600〜700メートルの鉢伏高原に位置する雪深い集落である。

新大阪から別宮へ

2008年9月下旬、新大阪から福知山線を経由する特急北近畿号に乗り八鹿で下車。駅前のバスターミナルは、湯村温泉、村岡、城崎、豊岡、日和山、出石など各方面へ向かうバスで賑わっていた。（注1）バスは、市街地を抜け、つるぎが丘で国道9号に入り、八木川の谷底平野を西へ向

かう。関宮までは香美町にある2つの百選の棚田を訪ねたときに辿った道、途中蛇紋岩米の看板が立っていた。多分、蛇紋岩が風化してできた粘土質の土壌で作られる米が美味しいといわれることからのネーミングであろう。関宮の関神社前の交差点を左折、県道87号を西へ、やがて左手山麓斜面に工場が見えてくる。かつての金山、現在は輸入鉱石を利用する中瀬精練所である。つづく集落摺鉢から右へ分かれる県道269号は但馬トンネルが完成するまでは国道9号だった幹線。自家用車ならばこの道を利用したがよい。

バスは直進し、さらに西へ。出合ターミナルで下車、関宮地域局発の小型バスに乗り換える。小さなバスは、すぐに右折して市道へ、八木川を渡って左折、小路頃から右へ折れ山道に入る。標高320〜650メートルの高原までの上り道である。鹿倉口で県道269号に合流後、農村歌舞伎

が復活した葛畑で左折、県道から分かれ一段と勾配がきつくなった市道を上り別宮に到着する。

大カツラが見守る棚田

棚田は停留所の西1キロ、中畑とよばれる地区にあり、面積は22〜23畝である。正面に氷ノ山を望む鉢伏山の中腹、県道より下の大カツラが見下ろす傾斜8分の1〜9分の1の南斜面にひろがっている。カツラの木は県指定の文化財、樹高27・3メートル、幹周14・5メートル、主幹の周りに100本近くの幹が叢生している大木。その前の広場から眺めると、正面はなだらかな稜線を描く氷ノ山の山塊、両側は厚いスギ林に囲まれた独立した空間に棚田で埋められた3つの凹部と2つの凸部がある。中央を占める2つの凸部は馬蹄形をなし、浅い谷を挟んで2つの半島が突き出しているように見える。半島の部分はそれぞれ面積が5〜10アールはあ

る大きな棚田が3枚ずつ、左側の半島には調和を乱すように3棟の赤いトタン屋根の作業小屋がたっている。谷の部分は溪流を挟み2列になって、面積2〜4アールの棚田がそれぞれ6〜7段ずつ並び、一部は放棄されている。

馬蹄形の基部に当たる道路側には3〜4列、湾曲する道路に平行して曲線を描く棚田がそれぞれ10段前後、谷側に向かって形成されている。面積はさまざまで1〜5アール。法面は土坡と石積みが半々、その高さは1〜2メートルのものが多く、なかには4メートルほどの土坡もみられる。

西端部は、スギ林から馬蹄形の中央部に向かつて7〜8段の棚田が数えられる。それぞれは、県道に直行し南北に細長くなって横たわり、1枚は大きく、5[㍔]以上、最も大きいものは20[㍔]はある。法面も高く2〜5[㍔]、大部分は土坡であるが一部石積みになっている。県道からこれらを見渡すとほぼ正面に氷ノ山の頂上を仰ぎ見ることができる。(注2)

棚田ではほとんど稲刈りを終えていたが、ところどころ刈り取られた圃場の一部に青立ちのイネが刈らずに残されていた。調べてみると、水口の部分である。用水源は大力ツラ脇の湧水。田圃の水持ちが悪いと聞いたので、冷たい水を掛け流しにしてヒヤリとよばれる冷水障害をおこし、生育が遅れているのであろう。

区長の西谷茂廣さんの話

夜、別宮のスキー宿で区長の西谷茂廣さんから話を聞いた。西谷さんは66歳、59歳の奥さんと息子夫婦(31M・31F)の4人家族。農業に従事するのは西谷夫妻のみ。息子さんは和田山の生コン工場に勤め、お嫁さんは家事担当だそう。西谷さんは5年間務める区長のほか、農業委員、東鉢伏体験村の代表、奥さんは養父市の生活改善グループの会長というから夫妻そろって地元ではキーパーソンの存在である。

まず、水田は中畑に16枚面積1・1[㍔]と、家の近くに10枚20[㍔]、あわせて26枚、



上／氷ノ山を望む棚田
中／大力ツラが見守る棚田
下／コンバインで稲刈りをする西谷さん

1・3[㍔]の棚田。そのうちの30[㍔]は転作田、ほかに市内の平坦地で7枚、60[㍔]を耕作している。中畑の棚田では高冷地のためコシヒカリではなくアキタコマチ、家の近くの棚田ではモチ米を栽培。平坦地の水田のうち、10[㍔]は奥さんの実家、50[㍔]は市職員から委託されたもので、小作料は10[㍔]当たり8000円だそう。(注3)

使用する機械類は20馬力のトラクター、4条植え田植機、2条刈りコンバインなどすべて乗用型。棚田でもある程度農道が整備されているものと思われる。自家用の米乾燥機も備えており、1回の処理能力が30袋(1袋30^キ)なので、その量だけを1日に収穫する。収穫された米は夕方5時から翌朝5時までの12時間機械にかけて乾燥、そ

の日のうちに姫路の業者へ出荷するそう。

区長を務める別宮は戸数47戸、そのうちの45戸が農家。水田を平均40〜50[㍔]、3戸が1[㍔]以上を所有しているという。1957年に葛畑から鉢伏までの農免道路が完成するまでは但馬杜氏で知られる出稼ぎの村であった。その杜氏が集落に5名もいたという。西谷さんも「もとまわり」として岡山や上市で働いたそう。(注4)

1957年以降、別宮はハイパーボウルの名で知られるスキー場をもつ集落に変貌した。冬の積雪期に出稼ぎに行っていた人たちはスキーで稼ぐようになった。現在スキー民宿が17戸、そのうちの10戸は冬季以外も学生の運動部や合唱部の合宿を受け入れる通年営業。4戸は売店、駐車場、食堂

などを経営している。西谷さんも20名収容のスキー民宿「まるこや」と10[㍔]の水田をつぶして40台収容の駐車場を経営するほか、リフトの責任者として働いている。集落内を歩くと、家にスキー民宿の看板がかけられ、あちらこちらにグラウンドやテニスコートがみられる。

代表を務める東鉢伏体験村の最大のイベントはラベンダーフェスティバル、2001年から実施されている。面積70[㍔]のゲレンデにグロッソ5000本、オカムラサキ2500本、コイムラサキ2500本の3種のラベンダーが播種された。7月中旬に2日間のイベントと2週間開園して入園料300円でお客を受け入れているそう。イベントの日には各戸1名ずつ、その他の開園日には女子2名に出役してもらい運営されている。2008年のイベントでは800名の来訪者があったという。(注5)

伝統行事「おつなうち」

最後に聞いた伝統行事「おつなうち」の話が面白かった。毎年1月9日、各戸2束(32輪)のワラを持って1名ずつが出役、集落入口の大櫓の広場に集まり、区長の指揮により午前8時から綱打ちの作業が開始される。女がゴンボと呼ばれる芯をつくり、男はこれを縛って直径30[㍔]、長さ18[㍔]の大縄にする。大縄が完成すると午前10時頃から1〜4組まである集落が上組(3・4組)と下組(1・2組)の2つに分かれ、

棚田博士は今日も行く!



今回の棚田へは:

兵庫県養父市 別宮の棚田

別宮の棚田へのアクセス

- 【自家用車】国道9号線 関宮交差点から県道87号そして県道269号方面へ、葛畑スキー場方面へ約20分。
- 【公共交通】JR八鹿駅より全但バス「鉢伏行」、出合ターミナルで「ハチ高原行」に乗り換え、別宮で下車、徒歩3分。
※バス利用の場合、運行本数が非常に少ないので事前必ず確認をしてください。(本文*注1参照)

綱引きを7回行う。勝負は、上組が勝てば豊作とされるので、毎年上組が勝つことになっていく。その後、2本の大樫に綱をかけ、五穀豊穡、家内安全などを祈願して午前中に行事を終えるそう。勝負が決まっているのに真剣に綱を引くという、日本人の真面目さを感じるユーモラスな行事である。このように、別宮では集落をあげてのイベントや伝統行事が組織的に行われており、集落構成員の強固な紐帯が健在である。スキー場があるという経済的優位性や、現在は農業に従事していても、比較的多くの後継者が地元に残っていることもあり、将来を語る西谷さんには余裕さえ感じられた。

- *注1 利用する全但バスの鉢伏行は、平日8便、日・休日は6便しかないローカル路線、しかも途中出合ターミナルでハチ高原行に乗り換える必要があり、その便も平日5便、日・休日は全便運休という不便さである。したがって、訪ねる場合前もってバスの時刻を調べておいた方がよい。
- *注2 東端部は、浅い谷を埋めるようにして、県道に平行に広さ112坪の小さな棚田が10段ほど並んでいる。法面の高さは1.5mと低く、大部分が石積みである。その奥、谷側の部分にはスギ林に接して3段の棚田、面積は1枚が41.5坪ほど。法面は土壁と石積み、その高さは2.5mほどである。
- *注3 転作田では高麗野菜としてキュウリ、キャベツ、レタス、白菜などを露地栽培しているが、キュウリのつるを止める作業が大変で8月には朝夕2回行わなければならないと嘆いておられた。このほか、畑15坪はハウスにして利用面積112坪のハウス6棟では軟弱野菜のコマツナ・チンゲンサイ・ホレンソウ・キナナなどを栽培、毎朝豊岡市場に出荷しているという。農家として忙しく働いている様子が窺える。
- *注4 普通、杜氏はその下に仕事の指図をする「頭」、酵母をつくるもと師(トシ・モトマツリ)、麹をつくる「麹師(コウジシ・タイシ)」の3役があり、職業集団が形成されている。別宮の杜氏は、伏見、上布(奈良)、岡山、四国などの醸造地に出かけていたという。
- *注5 播種したオカムラサキとコムラサキがほとんど枯れてしまい、市からの助成金も減額されたことなどから、人手のいる草刈り、草取りなどの維持管理がだんだん難しくなっているといわれている。

調査プロジェクトレポート



2009年度の調査がスタートします

■調査プロジェクトってなに?
2008年春に三井物産環境基金の助成を受けてスタートした、3年がかりのプロジェクト。全国の棚田保全に関わるグループを訪問し、聞き取りなどを行います。それぞれの棚田地域には、それぞれの歴史や特徴、課題があり、それを記録・整理し、今後の棚田保全や、棚田地域どうしのネットワークづくり、農山村と都市の交流の構築などへ活用できるようにするのが目的です。毎号、このコーナーで調査チームのレポートをお届けしていきます!

いよいよ2年目(2009年度)の調査プロジェクトが開始します。今年度も、8月〜来年2月にかけて調査メンバーが全国10地区の活動団体を訪問し、聞き取り調査を行います。

昨年は初年度ということもあり、活動を積極的に進めて実績を重ねている、いわば先進的な団体を多く訪問しました。2年目は、より広範囲に調査を行うこととし、特色のある活動を行っていたり、まだ活動を始めて間がなくあまり知られていない団体も選びました。その意味で、今年度は興味深い調査になると調査メンバーも意気込んでおり、準備に取り掛かっています。

最近、世間では棚田への関心が高まっていますが、まだまだ棚田地域の現状について都市住民やオーナーなどにきちんと伝わっていない部分がたくさんあります。今後は、調査プロジェクトで得られた情報をデータベース化するなどして整理し、Webや各種紙面などを通じて情報発信を積極的に進めていく予定です。

また、今年の調査プロジェクトは、幾つかの地域で、訪問団体の近隣に在住す

Research Project Report 2009

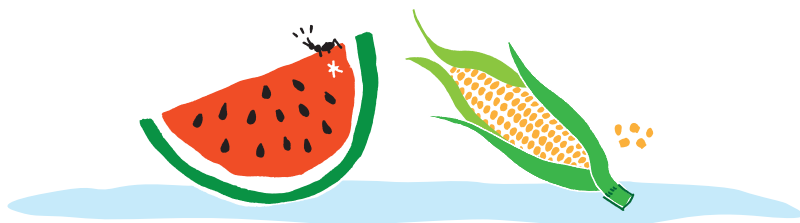
～ 2009 年度に訪問予定の地域・団体 ～

- ① 新潟県川口町 木沢棚田保全連絡協議会
- ② 石川県輪島市 白米千枚田愛耕会
- ③ 静岡県菊川市 上倉沢棚田保全推進委員会
- ④ 岐阜県高山市 滝町棚田保存会
- ⑤ 大阪府能勢町 能勢ながたに棚田農園
- ⑥ 兵庫県多可町 岩座神棚田保全推進協議会
- ⑦ 鳥取県三朝町 三徳地域協議会田舎体験ツーリズム部
- ⑧ 山口県周南市 棚田清流の会
- ⑨ 佐賀県有田町 岳信太郎棚田会
- ⑩ 熊本県山都 菅地域振興会

る会員の方に同行をお願いし、協力を得ながら一緒に調査を進めます。これによって、保存団体とのネットワーク強化や、より身近で日常的な交流の機会を持てる可能性が広がるのではないかと期待しています。

2年目の調査活動の動向は、引き続きこの欄でお伝えしていきます。また、皆さんからのご意見や、全国の棚田の情報などをお待ちしています。もちろん、本プロジェクトへの積極的な参加も大歓迎です。(清水一徳)

棚田ネットワーク Project & Topics



Project 岐阜県恵那市 棚田ビオトープ プロジェクト

棚田ビオトープの管理と オーナー田植え



「溪流沿いの棚田ビオトープ」の田植え

前回の会報で報告したように、5月22日、岐阜県立国際園芸アカデミーの学生さんが棚田ビオトープで田植えをしました。しかし「溪流沿いの棚田ビオトープ」の上段の棚田（昔ながらの棚田）は植えませんでした。そこで、坂折棚田のオーナー田植えが6月6日（土）に開催された際、この小さな棚田の除草をした後、田植えをしました。私の4歳の娘にも手伝ってもらいましたが、棚田の泥が足につくのがイヤらしく、すぐにや

めてしまいました。棚田ファンの私としてはがっかりですが、しかたないです。

8月29～30日には日本陸水学会中部支部のサマースクール（親子合宿）一行が、坂折棚田の見学を予定しており、もちろんですが棚田ビオトープについても説明いたします。昨年の「小学生棚田ビオトープ観察会」のように、子供たちに棚田の楽しさを伝えられればと思っています。

（相田 明）

Project 栃木県茂木町 夏の生き物観察 開催



参加者全員で記念撮影

今年も盛夏を迎え、5月に田植えした稲作り体験田んぼ周辺で、夏季生きもの観察会と棚田保全ボランティア活動を行いました。参加者は総勢36名。観察会の目玉は去年から復活が見られるホトケドジョウ。今年もいました！しかも、去年よりたくさん！その他にも、タガメ、タイコウチ、ミズカマキリ等々、数え上げたらきりがありません。白楊高校グループが見つけた孵化間もない「アカハライモリの赤ちゃん」には、あまりの可

愛さに見とれてしまいました。子ども昆虫博士の斎藤舜貴君が、幻の蝶「オオムラサキ」を捕まえて皆に披露。今では、この蝶に出会えるのは奇跡中の奇跡、幸運中の幸運。全員が歓声をあげました。岩ノ作棚田の自然は確実に蘇っていると確信した一日でした。

帰途、石畑棚田でハッチョウトンボを観察。いつ見ても可愛い。このトンボを守っている矢野さんの笑顔も素敵でした。

（安井 一臣）

Project 大阪市中央区 大阪プロジェクト

棚田応援米、はじめました



大阪はかつて「天下の台所」と呼ばれたあきんどの町。経済面からの棚田保全ということで、大阪プロジェクトでは棚田米流通のしくみづくりを進めてきました。ただ流通させるだけでなく、生産者の方々のやる気が出る価格で仕入れ、しかも売上の一部を棚田ネットワークをはじめ関連する棚田保全団体に還元することで、棚田保全のエネルギー源として循環させるのが目的です。

それを形にしたのが「棚田応援米」。新潟県池谷入山、滋賀県仰木、奈良県生駒、三重県伊賀などの棚田米を、一袋3合のミニパックにして上田米穀

店ネットショップにて2月から販売しています。

一袋は500円～で、売上の5%が棚田ネットワークに、10%が販売協力してくれた棚田保全団体に寄付される“チャリティ付き”の棚田米です。

棚田保全に理解があり、文字通り“応援”する気持ちで買ってくださる方のほか、お中元などのギフト用に使っていただいたりで、現時点の販売数は約600袋です。まだまだ微々たる量ですが、このプロジェクトをモデルに、棚田ネットワークのリードをいただきながら、全国展開を図っていきます。

（中崎 義志晴）

Topics 東京 青山 環境ボランティア見本市に参加



棚田について熱心に質問する来場者

6月20日（土）、東京青山の地球環境パートナーシッププラザにて、環境ボランティアをしてみたい方を対象にした「環境ボランティア見本市」があり、棚田ネットも出展しました。ブースでのPRをはじめ、企業とNPOのマッチングコーナーや勉強会、サイドエリアではカフェや野菜販売、ライブパフォーマンス、そして最後には交流会と盛りだくさん。「棚田」への関心も予想以上に高く、若い人から年配の方まで多くの方が、スタッフの説

明に真剣に耳を傾けてくれました。

ボランティアとしてというよりは、棚田地域に行ってみたい、体験してみたいという来場者が多かった印象がありますが、気運が高まりつつある今こそ、棚田地域の現状を伝え、実際に見てもらい、「棚田」にどのような関わり方ができるのか（現地活動や、各プロジェクト、事務局スタッフとしてなど）、今後もわかりやすく、継続しての発信が必要であると感じました。（久野 大輔）

棚田がつながる、棚田でつながる! 第4回

東京棚田フェスティバル

企画・準備
スタッフ募集!

開催日は11月14日(土)に決定! 今年のテーマは昨年の^わを継承。
棚田と棚田が、棚田で暮らし都市で暮らす人々が、より気軽に話し合い、
さらにつながっていくための場を創ります。

7月初めに“棚フェスチーム”が発足。
コンセプト立案や会場の選定、プログラムの企画など
いろいろと計画を練っています。
さらにより良く、スムーズな運営のために、棚フェスの企画・準備を
手伝っていただける**スタッフを募集**しています。
もちろん当日のスタッフも大歓迎。
気軽に事務局までお電話ください! ⇒03-5386-4001

協賛・後援していただける
企業・団体も募集しています。

「東京棚田フェスティバル」に協賛・後援していただける
企業・団体を募集しています。棚田保全のためにわたし
たちと出来ること、探してみませんか?

■お問い合わせ⇒棚田ネットワーク事務局
Tel.03-5386-4001



写真は「第3回東京棚田フェスティバル」(2008)の会場風景です。



わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか!

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい“棚田”をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員になると!

会報紙「棚田に吹く風」(年6回)やイベント案内お届けの他、棚田ネットワークが主催する各プロジェクト(イベント)への参加や、スタッフとしての活動もできます。

年会費

○個人会員
維持会員 1口1万円(1口以上)
一般会員 3,000円
学生会員 2,000円

法人会員も募集しています!

私たちの活動にご支援・ご協力をいただける、企業、団体、事業主さまも募集しています。詳細はお問い合わせください。

年会費

○法人会員
1口3万円(1口以上)

この上のスペース(ページ上1/2サイズ)は法人会員さまのPRスペースとして広告や広報にご利用いただけます。是非ともご入会ください。お待ちしております。(詳細はお問い合わせください)

編集部から
ついに来たか! 棚田ブーム
最近もしかして「棚田」がブームかもしれません。昨今の農業ブームも手伝ってか、今年に入って取材の申し込みや情報の提供依頼がやけに多くなりました。この1ヶ月でも、バルシステムの情報誌「のんびる」、クロワッサンプレミアム(写真ですが)、リクルートの中高向け雑誌「コレカラ」と立て続けで、対応も大忙しです。さらにテレビでは、NHK「近所の底力」での日南市坂元棚田の方たちの出演を筆頭に、新聞のテレビ欄にも連日「棚田」の文字を見るようになりました。
棚田ネットワーク発足当時は「棚田って知ってる?」と聞くと「えっかなダ?」と聞き返されたらしいです(笑)。そんな時代からすると、とてもありがたいことですが、メディアの情報伝達には限界や誤解も多々…。会員のみならず、会話に「棚田」が出てきたら、ぜひナイスフォローをお願いします!

ウェブサイトも見てください!

棚田の基礎知識や、棚田ネットワークの活動内容、イベント情報、ブログなど、盛りだくさんの情報を発信しています!是非のぞいてみてください!

www.tanada.or.jp



ブログも
随時
更新中!



2009年8月号 Vol.66

発行



特定非営利活動法人
棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp